

【 最近の“誓願寺” 】



2メートルのマフラーを編みました  
編み終わった途端暖かくなりました(坊守)



家族総勢11人が揃った記念に「はいピース」



劇団四季のライオンキング観劇

しんらん同人

No.585  
3・4  
月号

われも ひかりの うちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

最近「歎異抄」に目を通すことが度々あります。一部の皆様にはお渡し致しました「傍訳歎異抄」を、お時間がある時に「原文と訳文」を【声に出してお読みになること】をお勧めしたく掲載いたします。今回は、全十八条のなかの第三条です。

第三条

一 善人ぜんじんなおもって往生おうじょうをとぐ、いわんや悪人あくじんをや。しかるを、  
 「ひとつ」「善人ぜんじんでさえ浄土じやうどに往生おうじょうを逃げるのですから、」「悪人あくじんはいうまでもないことです。」「それなのに、」  
 世よのひとつねにいわく、悪人あくじんなお往生おうじょうす、いかにいわんや善人ぜんじんを  
 「世間の人は必ずさう言います、」「善人ぜんじんはいうまでもない、と、」  
 や。この条じよう、一旦いつたんそのいわれあるにたれども、本願ほんがん他力たうりきの意趣いしゆ  
 「この世のい方は、」「応もつともな道理だうりのように聞こえますが、」「善人ぜんじんはいうまでもない、と、」  
 にそむけり。そのゆえは、自力じりき作善さぜんのひととは、ひとえに他  
 「どういうことかといえは、」「自分の能力のうりきを頼たのみとして生きる善人ぜんじんは、」「ひたすら自力じりきをたの  
 力をたのみどころかけたるあいだ、弥陀みだの本願ほんがんにあらず。  
 「弥陀みだの本願ほんがんに背そむけて生きていることになるので  
 むねが欠けていますから、」  
 しかれども、自力じりきのころをひるがえして、他力たうりきをたのみたて  
 「しかれども、自力じりきのころをひるがえして、他力たうりきをたのみたて  
 まつれば、真実しんじつ報土ほうどの往生おうじょうをとぐるなり。  
 「真実しんじつ報土ほうどに生まれることが出来ず、」  
 煩悩ぼんのう具足ぐそくのわれらは、  
 「煩悩ぼんのう具足ぐそくは全て空しくしているから、」  
 いずれの行ぎやうにても、生死しやうじをはなることあるべからざるをあわれ  
 「どのような修行しゆぎやうによつても、」「迷まよいはなれることが出来ないうことです。」「阿弥陀知  
 みたまいて、願がんをおこしたまう本意ほんい、悪人あくじん成仏じやうぶつのためなれば、他  
 「まが哀れんでくださつて、」「本願ほんがんを起おこされた目的てきは、」「悪人あくじんを仏ぶつと成なすことにあるのですから、」「仏  
 力をたのみたてまつる悪人あくじん、もつとも往生おうじょうの正因しやういんなり。よつて  
 「力をたのみたてまつる悪人あくじん、もつとも往生おうじょうの正因しやういんなり。よつて  
 善人ぜんじんだにこそ往生おうじょうすれ、まして悪人あくじんはと、おおせそうらいき。  
 「善人ぜんじんでさえ往生おうじょうする、」「まして悪人あくじんは問とうまでもない、」「と申し上げたのです。」「」  
 と、親鸞しんらん聖人せいじんからお聞きしました。



## 「陽が出て夜が明ける」

ある日、親鸞聖人はお弟子方に「夜が明けて陽が出るのか、陽が出て夜が明けるのであろうか。どちらだろう」と尋ねられた。

するとお弟子方は「夜明けが先だ」「いや陽の出が先だ」と様々な意見が出ました。

しばらくして聖人は仰せられた。太陽が出たから、夜が明けたのである。これは例えであるが、無量の光がなかったら、無明の闇・迷いの闇は、晴れることはなかった。しかるに今、宿善が到来して、不断・難思の如来の光明が、貪欲と腹立ち、煩惱の世界を照らしてください、ようやく無明・迷いの闇が晴れて、明らかに信心を得る身となったのである。しかし、欲望や腹立ちの煩惱の雲霧が空を覆っているの  
で「煩惱にまなこさえられて」とか「すでに迷いの闇は破られてけれども」といわれるのである。  
太陽が出なければ、夜が明けないように、如来の光明なければ、われらの無明が打ち破られることはない。無明を破らねば、迷いを離れることは出来ないのと

信じよう、信じようとかかっても信心は得られない。如来の光明にあつて、初めて信心が得られるのである。

我が力や、我が心で信心を得るのではない。如来の仰せ、南無阿弥陀仏のおいわれを聞く。その一念に「私のための願いであったか、南無阿弥陀仏は私が救われる、いな、救われている証拠であったのか、如来は私を思うてくれる真実の親でましましたか」と、安心させられる、それが信心である。

如来のお救いに安心することであり、如来のお計らいによって、安心させられるのである。闇の中でいくらかもがいても、光はない。光を仰ぐとき闇はたちまち晴れて明るい笑顔が出てくるのである。



合掌

誓願寺初代住職 故 岡本泰雄





## 「光寿無量」

「光寿無量」とは、この上なくおめでたいことであります。

本当におめでたいということは、光寿無量の身とならしめられることでありましょう。

光かぎりなく、いのちかぎりなき仏に、すべてをお任せして、安心させていただくこと、それが南無阿弥陀仏と聞かせて頂きます。すべてをお任せすることは、引き受けて下さる如来さまがましますからであります。

迷いに沈み苦悩する私を哀れみまして、救わずんば仏とならじと誓いたもうて、五劫の思惟と兆載永劫の御修行の

結果、この誓願を成しとげて阿弥陀仏となり、南無阿弥陀仏のみ名を仕上げたもうたのであります。

この如来の大慈悲心が、南無阿弥陀仏として、われわれの上に働いて下さるのであって、南無阿弥陀仏のみ名を信じ称える者は、如来の慈光

の中に包まれているのであります。如来は御自ら光り限りなく、命限りないお方であるばかりでなく、光明（智慧）と寿命（慈悲）すべてを、われに与えたもうのであります。

南無阿弥陀仏のみ名を頂くとき、われわれは光明に包まれ、限りなきいのちを恵まれ、無限の能力が与えられるのであります。光明は無明の暗さを打ち破り、無限の力はわれわれをして無碍の大道を歩ましめたもうのであります。

日々夜々如来とともにあり。いつ目をつむっても、光明無量・寿命無量の世界に往生せしめられるのであります。一から十まで如来の御計らいの中にあります。この大いなるものの力に生かされる喜びが南無阿弥陀仏であります。

合掌

誓願寺初代住職 故 岡本泰雄



ご法座等  
のご案内

どなたでもご自由に  
ご参加いただけます。  
参加費は無料です。



3月

3・9  
(日)

■午前十時〜  
定例法座

【内田正祥師 (三重県)】

■正午〜

医療相談

【佐藤公彦医師】

3・16  
(日)

■午前十時〜  
なかよしクラブ

(乳幼児から小学生までとその保護者)

3・23  
(日)

春の彼岸会

■午後一時〜

彼岸会・祥月命日合同法要

【古賀明德 副住職】

4月

4・13  
(日)

■午前十時〜  
花まつり

【八幡真衣師 (石川県)】

■正午〜

医療相談

【佐藤公彦医師】

4・20  
(日)

■午前十時〜  
なかよしクラブ

(乳幼児から小学生までとその保護者)

4・27  
(日)

■午後一時〜

定例法座・祥月命日合同法要

【星野親行師 (大阪府)】

編集後記



・今年の一月は何故か特段に多忙であった気がします。そうした中で、二月には、今迄あまり無かった事が続き大いに落ち込んだ次第です。

確かに、人の名前等を【忘れる】ことはありました。しかし、この度は、お渡しする資料を【間違える】という失敗をしたことです。

【忘れる】と【間違える】は、私の中ではその原因が根本的に異なります。加齢もあるでしょうが、慣れを厳に慎む事を心に刻みました。

・ベトナムから孫たちが一時帰国し、お寺もしばし賑やかになりましたが瞬く間に元の静かさに戻りました。進学の準備などで三月にも再び帰国とのこと、楽しみです。

・二月は初代住職・岡本泰雄師の祥月命日です。早いもので三十八年が経ちました。一言では言い表せませんが恥ずかしくない日常を過ごしたいと心を新たにしました

